



教祖140年祭

If you do not follow the path of the Divine Model, there is no need for a Divine Model... There is no path but the path of the Divine Model.
Osashizu, November 7, 1889

ひながたの道を通らねばひながた要らん。(略) ひながたの道より道が無いで。
(おさしづ 明治22年11月7日)

水みずを飲のめば水の味あじがする。

「水を飲めば水の味がする」

これは教祖が貧のどん底に落ちきられたときのご逸話です。

娘のこかん様が、お母さん、もう、お米はありません。と言くと、教祖は、「世界には、枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を越さんと行って苦しんでいる人もある。そのことを思えば、わしらは結構や、水を飲めば水の味がする。親神様が結構にお与え下されてある。」と仰せられました。

このお言葉から、いくつかのありがたさに気づくのではないのでしょうか。たとえば、飲み水があること。味が分かること。食物が喉を通ること、などです。

私たちの身体は親神様からのかりものであると教えられます。そこから、どんな境遇にあつて

も心一つで親神様のご守護を感じることができ、感謝から喜びを見出すことができます。

いま私たちは、食物に困ることはありません。安心して食事を楽しむことができます。これだけでも十分ありがたいことなのですが、そこで親神様のご守護に感謝しているかと問われればどうでしょうか。

以前、風邪で喉が腫れあがり、まったく食物が食べられず、水を飲み込むのさえ容易でないことがありました。とても辛かった経験でした。このたびコロナ感染で、同じような思いをされている方も多々と思います。食物が喉を通ることが、本当にありがたいことなのだと思えました。

水は身近にあつて当たり前すぎて、かえってありがたいことに気づきにくいものです。

本島大教会布教部(真)